

日野市気候市民会議を開催しました

1. 背景・目的

近年、世界中で地球温暖化が原因とみられる極端な気象現象や様々な災害が確認されるようになりました。

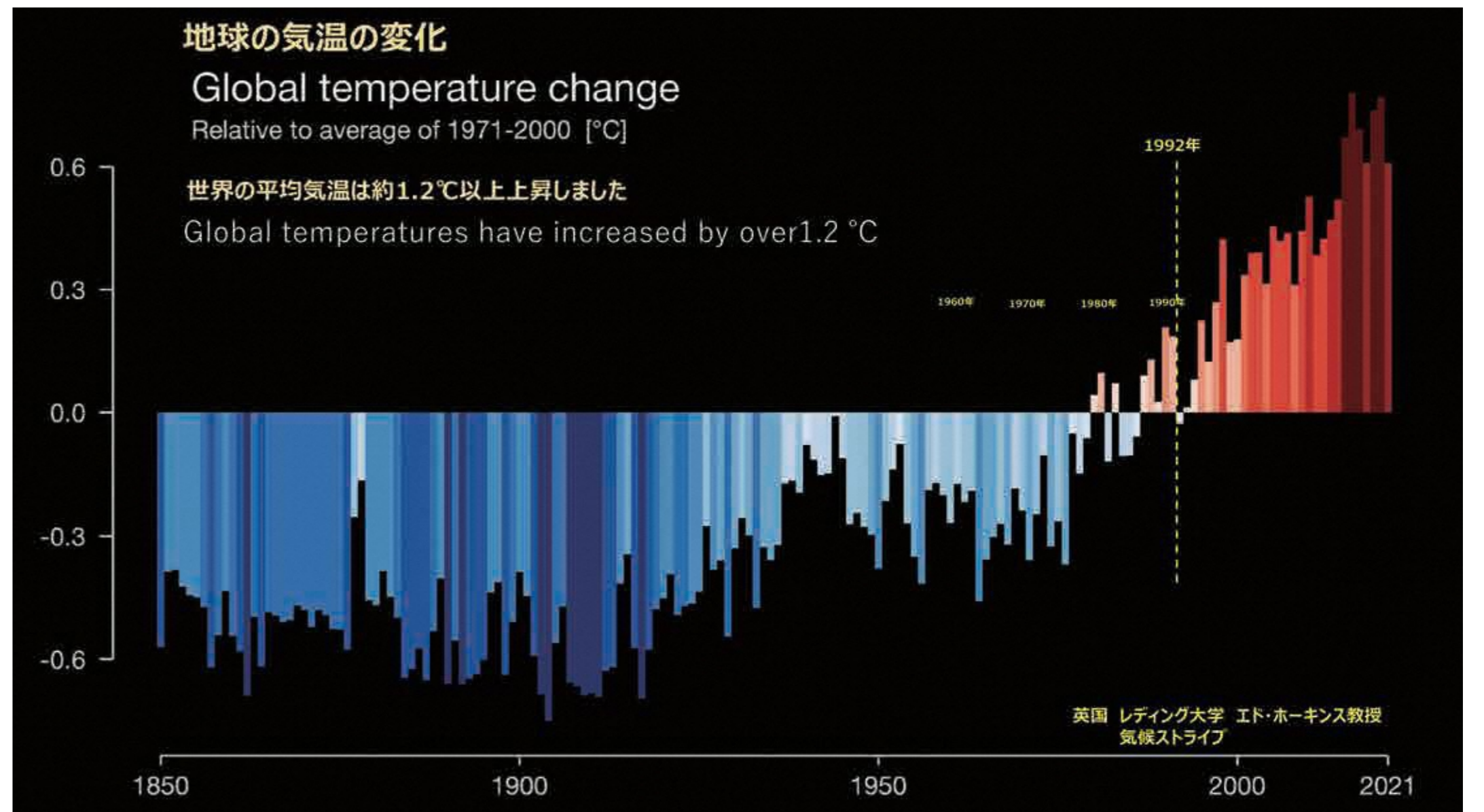
日野市では、これらの影響を少しでも軽減するため、2050年までに二酸化炭素(CO₂)の排出を実質ゼロ(カーボンニュートラル)とすることを2022年に表明しました。この目標は、市民、事業者、行政それぞれが協調する地域体制を作らなければ、実現し得ないものです。

日野市には、「諸力融合」※という言葉があります。これには、未来への責任を共有するすべての人や団体【諸力】が、互いの立場を尊重しながら協力し、それぞれが持つ力をつなげていく【融合】ことで、1つの大きな力となって困難を乗り越え「可能性に満ちた未来を切り拓いていきたい」という思いが込められています。

日野市気候市民会議は、この「諸力融合」のひとつとして、カーボンニュートラルの実現に向けた市民、事業者、行政それぞれの取り組みをとりまとめるために開催しました。

※ 諸力融合:大坪市長が2014年度の所信表明で使用した造語

世界の平均気温の偏差(産業革命から現在まで)



資料:気候ストライプ(英国 レディング大学 エド・ホーキンス教授)に加筆

「諸力融合」の枠組み



2. 気候市民会議とは

気候市民会議は、ランダム(無作為)に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、科学的知見を得ながら議論を重ね、気候変動対策をとりまとめるものです。

社会の縮図を作って議論を重ねることにより、特定の業界や利害関係者の影響を受けずに、多様な市民の意見を反映した、広く受け入れられやすく効果が大きい気候変動対策をとりまとめることができます。

3. 会議の参加者

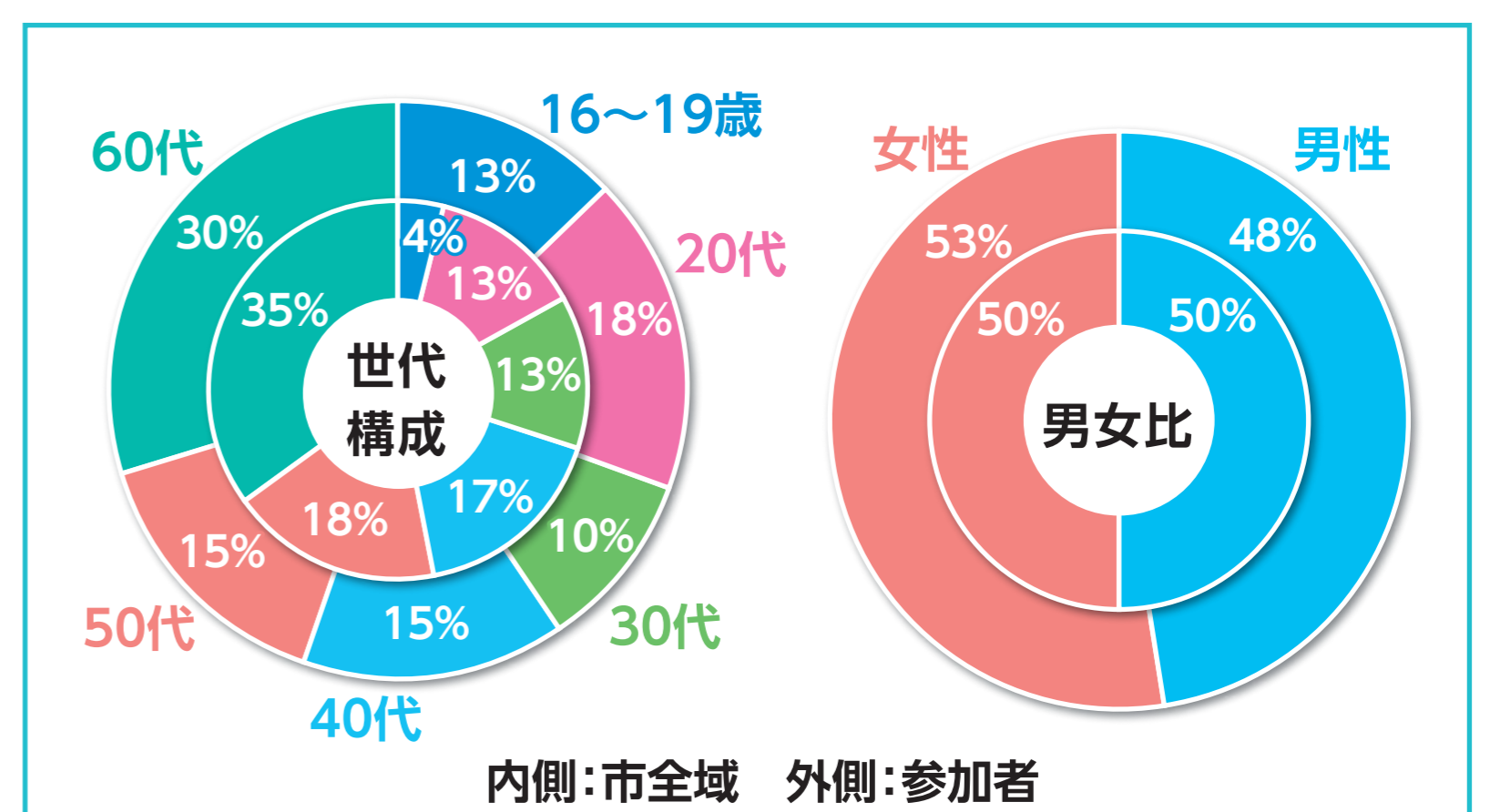
参加者は、①住民基本台帳から4,500名をランダム(無作為)に抽出 ⇒ ②各々へ参加希望を確認 ⇒ ③参加希望者154名から定員40名を選定、という手順で選定しました。

年代と性別の構成が、日野市全域の構成に近づくように40名を選定し、日野市の社会の縮図がつくられるように工夫しました。

国内での開催状況(2024年1月時点)※日野市調べ

自治体以外が主催	自治体が主催
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市 ・川崎市 ・厚木市 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば市 ・横浜市青葉区 ・さいたま市浦和美園駅周辺
	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市 ・江戸川区 ・所沢市 ・多摩市 ・神奈川県(逗子・葉山)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市 ・仙台市 ・松戸市 ・杉並区 ※3月開催予定

市全域と参加者の構成の比較

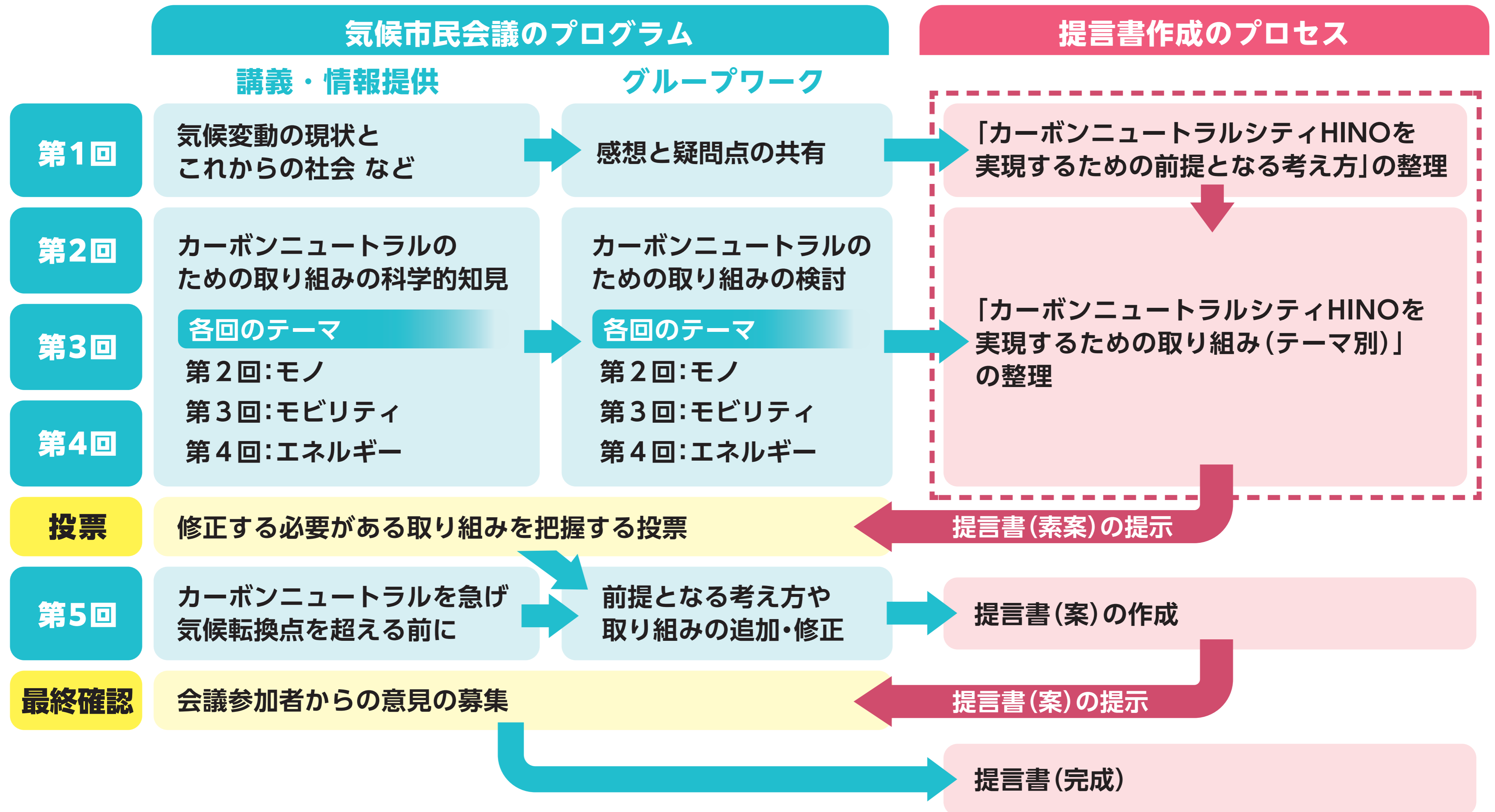


日野市気候市民会議を開催しました

4. 会議の内容

会議は全5回にわたり、毎回、様々な専門家や事業者の話を聞く「講義・情報提供」と、市民同士で議論する「グループワーク」を行いました。

その他、提言書(素案)をもとにした「修正する必要がある取り組みを把握する投票」や、提言書(案)をもとにした「会議参加者からの意見の募集」を挟み、提言書を完成させました。



- | | |
|--------------|---|
| 第1回
31名参加 | 年月日 2023年8月6日(日) 場所 イオンモール多摩平の森
協力者 江守 正多 氏 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
(国研) 国立環境研究所 上級主席研究員
三上 直之 氏 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 准教授
(現在:名古屋大学 大学院 環境学研究科 教授) |
| 第2回
33名参加 | 年月日 2023年9月3日(日) 場所 日野市役所
協力者 山口 真奈美 氏 (一社)日本サステナブル・ラベル協会 代表理事
(株)セブン-イレブン・ジャパン 日野市資源リサイクル事業協同組合 |
| 第3回
33名参加 | 年月日 2023年10月1日(日) 場所 日野市役所
協力者 井原 雄人 氏 早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構
電動車両研究所 研究院客員准教授
日野自動車(株) 佐川急便(株) |
| 第4回
30名参加 | 年月日 2023年11月5日(日) 場所 多摩動物公園
協力者 磐田 朋子 氏 芝浦工業大学 副学長
(システム理工学部 環境システム学科 教授)
東京ガス(株) 富士電機(株) |
| 第5回
24名参加 | 年月日 2023年12月10日(日) 場所 日野市役所
協力者 山本 良一 氏 東京都立大学法人 理事長 / 東京大学 名誉教授 |



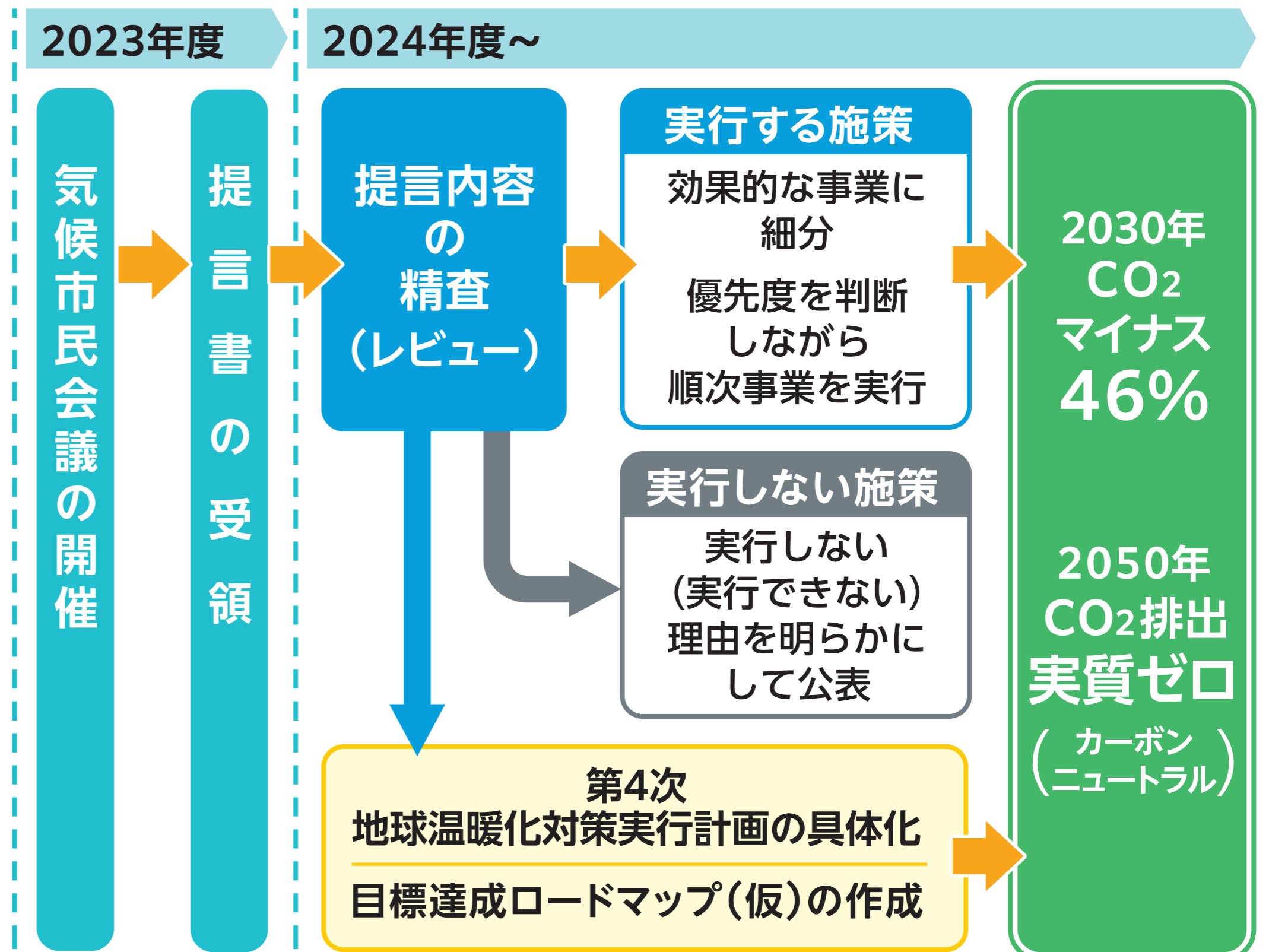
日野市気候市民会議を開催しました

5. 提言を受けたあとの日野市の動き

日野市は、気候市民会議からの提言を順次施策や事業に反映し、2050年カーボンニュートラルを目指していきます。

まず、提言内容を精査(レビュー)し、「実行する施策」と「実行しない施策」に仕分けします。その際、「実行しない施策」については、その理由を明らかにして公表することを約束します。

「実行する施策」については、効果的な事業に細分したうえで、優先度を判断しながら「目標達成ロードマップ(仮)」に反映し、順次実行していきます。



具体的な動きの方向性

施策や事業への反映

- 第4次地球温暖化対策実行計画(2022年4月策定)の具体化、**目標達成ロードマップ(仮)**の作成
- 施策や事業を実行するための庁内の体制づくり
- 日野市のレベルで実施できないものは、国や都への要請等を検討

市民・事業者へのアプローチ

- | | |
|------------|--|
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> ● 気候市民会議の参加者へ活動の継続に繋げる呼びかけ(気候市民会議の広域ネットワークイベント等) ● 参加できなかった市民などへのアプローチ(広報・イベントなど) |
| 事業者 | <ul style="list-style-type: none"> ● 高校や大学等との連携、学生版市民会議(仮)、地域コミュニティ活動へのアプローチ ● 提言の内容をとりまとめたパンフレットの配布 ● 気候変動パートナー制度、ベストプラクティスの表彰などの検討 |

他の地域へのアプローチ

- 都内区市町村や東京都と気候市民会議の成果等の共有[気候市民会議自治体ネットワーク会議(仮)]

6. 会議の参加者の声

ミニ日野市を作るという市民会議のアイデアが大変すばらしいと思いました。普段声を聞くことができないサイレントマジョリティーの声を聞くことができるのは有意義だと思いました。想像していた以上に多様性があり熱心に討議し楽しかったです。

省エネに関して、個人ができることは多くありますが、その前提として**企業や自治体によって情報がもっと共有**され、それを私たちが取捨選択していく構図を生み出すことが今後重要になっていくのだとグループワークを通して発見することができました。

この会議を起点に**気候変動に対しての反撃**が始まると確信しています。日野市の取り組みを市民は最大限支援すると思いますし、私自身も努力をしまいたいと考えます。きっと2040年には涼しい夏が戻ってくると信じています。

日野市気候市民会議からの提言



カーボンニュートラルシティHINOの実現に向けて

1. はじめに

日野市気候市民会議に参加した我々は、無作為に選ばれた日野市民です。

気候変動をはじめとする環境問題に対し、特別な知識を持っている訳でもなく、特別に意識が高いという訳でもない、一般の日野市民の立場でこの会議に参加しました。

このような一般の日野市民の視点でも、様々な専門家や事業者の話を聞き、市民同士で議論するなかで、気候変動の現状に対する大きな危機感を抱きました。また、この現状を少しでも解決に近づけるために、市民、事業者、行政のすべての人がこの問題に向き合い、協力し合いながらすぐにも取り組みを始める必要があるという結論に至りました。

全5回の会議を通じた市民同士の議論により、最終的にとりまとめた提言は37、取り組みは390個にもなります。

これらの提言、取り組みが他の市民や事業者の共感を得られること、行政主導による政策にひとつでも多く取り入れられることを願い、ここに「日野市気候市民会議からの提言 カーボンニュートラルシティHINOの実現に向けて」を発表いたします。



2. 前提となる考え方

1 環境問題を教育や家庭、政治、行政で取り上げる

すべての人が気候変動の問題に関する事実を知り、議論し、行動に移すために、教育や家庭、政治、行政において、もっとこの問題を取り上げ、興味や関心を持てるようにすることが重要です。

2 現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

気候変動の問題は待ったなしの状況であるため、現状より温室効果ガスの排出削減ペースを上げていく必要があります、すぐにでも取り組みを実行に移す必要があります。

3 社会と意識の「大転換」を起こす

これまでの枠組みにとらわれない社会と意識の「大転換」を起こすことが重要です。「社会の仕組みが変わること」、「人々の常識が変わること」により、化石燃料に依存しない社会を築いていく必要があります。

4 本提言書に書かれた取り組みの進み具合を評価する

本提言書をもとに啓発資料としてとりまとめたもの等を駅や公共施設、商業施設など、多くの人の目に留まる場所で配布したり、事業者への説明会を開催して周知したりする必要があります。

また、政策や取り組みの進み具合を「見える化」して評価するために、市民又は第三者による評価を実施する必要があります。

日野市気候市民会議からの提言



カーボンニュートラルシティHINOの実現に向けて

3. 37の提言

「前提となる考え方」に関する取り組み

- 提言1 環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながらこの問題に取り組む

モノに関する取り組み

◇生産と消費

- 提言2 環境に配慮したモノを普及させる
- 提言3 環境に配慮した食を普及させる
- 提言4 モノの生産、無駄な消費を減らす
- 提言5 地産地消を普及させる

◇販売方法

- 提言6 環境に配慮した販売方法を普及させる

◇廃棄、再利用、資源循環

- 提言7 モノの生産、無駄な消費を減らす(再掲)
- 提言8 食品ロスを減らす
- 提言9 リユース、リサイクルを進める
- 提言10 街なかのごみを減らす(海洋プラスチックを減らす)
- 提言11 ゴミの収集、処理の過程で環境に配慮する

モビリティに関する取り組み

◇自家用車、社有車、公有車

- 提言12 自動車の台数を減らす、走行距離を減らす
- 提言13 環境に配慮した自動車を普及させる
- 提言14 環境に配慮した運転を普及させる

◇公共交通機関など

- 提言15 環境に配慮した公共交通機関を使いやすくする(自家用車や飛行機に依存しない社会)
- 提言16 新しいタイプの相乗り型交通機関を普及させる(高齢者も移動しやすい社会)

◇街づくり

- 提言17 自動車の流れをスムーズにする
- 提言18 遠くに出かけなくても生活できる魅力的な街をつくる
- 提言19 地域ごとの特性を踏まえながら、だれもが移動しやすい街をつくる

モビリティに関する取り組み

◇徒歩、自転車

- 提言20 徒歩、自転車での移動を増やす(自家用車に依存しない社会)

◇物流

- 提言21 モノを運ぶ距離や量を減らす
- 提言22 地産地消を普及させる(再掲)
- 提言23 環境に配慮した方法でモノを運ぶ

エネルギーに関する取り組み

◇市民の省エネ

- 提言24 断熱性の高い省エネ住宅を普及させる
- 提言25 省エネ家電、省エネグッズを普及させる
- 提言26 省エネ型ライフスタイルを普及させる
- 提言27 省エネ機器を普及させる

◇事業者の省エネ

- 提言28 省エネ型ビジネススタイルを普及させる

◇街の省エネ

- 提言29 エネルギー消費が少ない街をつくる
- 提言30 熱をため込まない街、気温が上がっても快適に過ごせる街をつくる

◇エネルギー転換

- 提言31 太陽光発電システムを普及させる
- 提言32 市内の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言33 市外の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言34 電力のピークカット、ピークシフトを進める
- 提言35 熱利用の脱炭素化を進める
- 提言36 未利用エネルギーを活用する、新エネルギーを開発する

その他の取り組み

- 提言37 二酸化炭素の吸収を進める